

公益社団法人私立大学情報教育協会  
令和2年度 第3回産学連携推進プロジェクト委員会議事概要

- I. 日 時：令和2年11月20日16:00～18:00
- II. 場 所：私立大学情報教育協会（ZOOMによるテレビ会議開催）
- III. 参加者：向殿委員長、大原副委員長、辻村委員、井上委員、田辺委員、斎藤アドバイザー、吉永アドバイザー、渡部アドバイザー、河野アドバイザー、青木アドバイザー、井端事務局長、森下
- IV. 資料
1. 令和2年度「学生による社会スタディ」開催要項
  2. 令和2年度「産学連携人材ニーズ交流会」開催要項
  3. 第2回産学連携推進プロジェクト委員会議事概要

V. 検討内容

1. 令和2年度「学生による社会スタディ」開催要項について

第2回委員会で確定し、募集に入っている「学生による社会スタディ」の開催要項について、有識者のご都合を確認した結果「令和3年2月5日（金）」に決定し、最終的な開催要項を11月6日にメールで委員・アドバイザーに確認いただき確定したことを踏まえて令和2年度の「学生による社会スタディ」開催要項について以下の内容を確認した。

① 募集形態

- ・グループ討議を含む全てのプログラムに参加する「全プログラム参加者」 100名
  - ・グループ討議に参加せず、情報提供と質疑応答・意見交換に限定して参加する学生200名
- ※ 申込が定員を超えた場合、一部の大学に参加者が偏らないよう抽選等の方法で参加者を決定する。

② グループ討議の運営について

- ・グループ討議については、ネット上で最大100名を6名1グループ、計16グループ程度でウェブレイクアウトルームを用いて行う。
- ・昨年度のグループ討議では参加者が自主的にグループ討議を進め、良い発表ができていたことから参加学生主体で進めるが、初めての学生同士がWeb上でスムーズにグループ討議できるかの不安もある。
- ・このため、事務局で基本的なZoomの操作とグループ討議のマニュアルを作成し、段取りを決めて参加学生に主体的に進めてもらうようにする。
- ・どうしても進まないグループ、リクエストがあるグループには必要に応じて委員がチャット等で助言や支援を行う。

2. 令和2年度「産学連携人材ニーズ交流会」開催計画について

第2回委員会で検討した令和2年度「産学連携人材ニーズ交流会」開催要項について、開催日時「2021年3月5日（金）」、配信会場「アルカディア市ヶ谷（私学会館階）」でオンライン開催（Zoom使用）することを決定し、以下の開催要項を作成した。

(1) 開催趣旨

「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」を受けて、異なる分野の学生や社会人を交えて多面的に知識を組み合わせ、談論風発を繰り返す中で知恵を創り出す学修者本位の学びの仕組みを加速していく必要があります。対面による学びに加え、時間・場所を越えたサイバー上の仮想空間とマッチングして多様な「知」との新結合を目指す新しい学びのスタイルを考える必要があります。今、正にコロナ禍の中で遠隔授業の有効性と可能性を体験しておりますが、これを機に最良の

仮想空間による学修環境を整備し、学生が物事の本質を見極める意識を持って主体的に行動し、協働で創造的知性を引き出す教育のICT変革、大学教育のデジタル変革が喫緊の課題となっています。

そこで、今回の産学連携人材ニーズ交流会では、教育のデジタル変革に向けて、日本の国際競争力の低下、コロナ禍での教育の構造変革、AIを使いこなす人材育成などについて産学が連携した新しい学びの仕組みを考える機会にしたいと考えています。

## (2) プログラム

### 情報提供について

#### 情報提供1 ポストコロナにおける大学教育のDX化と数理・データサイエンス・AI教育

服部 正 氏 文部科学省高等教育局専門教育課企画官

新型コロナはヒト・モノ・カネの流れを急速に変化させ、社会の産業構造や生活様式、教育の在り方に大きな変革をもたらしています。コロナ禍はこれまで踏み込むことができなかった大学教育のデジタルトランスフォーメーション(DX化)を加速しています。Society5.0を目指す日本としてはサイバー空間とフィジカル空間を融合した未来を切り拓く人材育成の教育が不可欠となっています。

そこで、新しい大学教育の創造を目指し、授業価値の最大化を実現していく文部科学省の構想と、数理・データサイエンス・AI教育の政策動向について説明いただきます。

#### 情報提供2 仮想キャンパスによる産学連携イノベーションラボの提案

野村 典文 氏 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社技監(兼)エンゲージティブ・プロデューサー

イノベティブな人材育成には「思考訓練を行う場」と「体系だったプログラム」が必要で、体系化された理論を研究できる大学と実際にイノベーションを起こそうとしている企業が協力しないと実現できません。そこで、新たな教育の仕組みとして「教育データクラウド」上の「仮想キャンパス」による産学連携での教育イノベーションの構想を提案いただきます。

#### 情報提供3 仮想空間と現実区間を活用した産学連携プロジェクト授業の試み

青木 義男 氏 日本大学理工学部学部長・教授

教育のデジタル変革に向けた取組の事例として、現実世界での膨大な観測データなどの情報をサイバー空間で分析・予測することで、「社会システム効率化」「新産業創出」などを目指す産学連携の取組を紹介いただきます。

#### 情報提供4 大学と社会が連携したデータサイエンス・AI教育の取組み

大社接続による教育のオープンイノベーションの仕組みとして、教育プログラムの共同開発、教材としての実データの確保と使用上のルール、大学への実務者派遣の支援条件、大学から企業への課題解決の助言及び共同研究に対する支援、知的財産の取扱い、費用分担など産業界や地域社会との合意形成が大きな課題となっています。そこで、実際に産学連携を進めている2大学に取組みを紹介いただきます。

<滋賀大学の取組み> 椎名 洋 氏 滋賀大学データサイエンス学部教授

<早稲田大学の取組み> 後藤 正幸 氏 早稲田大学創造理工学部教授

### 全体討議 「大社接続による教育のオープンイノベーションを考える」

価値創造に関与できる実践的な人材育成を目指し、大学と産業界・地域社会を組み入れた「大社接続」による授業モデルについて「情報専門教育分科会」からの報告を踏まえて、新しい価値の創造を目指すPBL授業の普及・推進方策を中心に大学と産業界がどのように接続・連携すべきかについて意見交換し、新しい学びの仕組みについて理解の共有を図る。

### (3)参加対象者

#### (1) 大学関係者

私立大学の教員、職員

#### (2) 企業関係者

本事業に賛同する企業の経営責任者、人材育成部門・事業部門の責任者及び担当者

#### (4) 参加費 無料

以上の内容を踏まえて第「11回産学連携人材ニーズ交流会開催要項」を作成し、12月に全国の私立大学に発送、参加者を募集することにした。

公益社団法人 私立大学情報教育協会

## 第11回産学連携人材ニーズ交流会 開催要項

日 時 : 2021年3月5日(金) 13:00~17:00 (第2候補 3月4日)

配信会場 : アルカディア市ヶ谷(私学会館0階) オンライン開催(Zoom使用)

東京都千代田区5番町1-10 TEL 03(3261)9921 (代表)

### 1. 開催趣旨

「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」を受けて、異なる分野の学生や社会人を交えて多面的に知識を組み合わせ、談論風発を繰り返す中で知恵を創り出す学修者本位の学びの仕組みを加速していく必要があります。対面による学びに加え、時間・場所を越えたサイバー上の仮想空間とマッチングして多様な「知」との新結合を目指す新しい学びのスタイルを考える必要があります。今、正にコロナ禍の中で遠隔授業の有効性と可能性を体験しておりますが、これを機に最良の仮想空間による学修環境を整備し、学生が物事の本質を見極める意識を持って主体的に行動し、協働で創造的知性を引き出す教育のICT変革、大学教育のデジタル変革が喫緊の課題となっております。

そこで、今回の産学連携人材ニーズ交流会では、教育のデジタル変革に向けて、日本の国際競争力の低下、コロナ禍での教育の構造変革、AIを使いこなす人材育成などについて産学が連携した新しい学びの仕組みを考える機会にしたいと考えています。

### 2. プログラム

13:00 開会挨拶 向殿 政男 氏 公益社団法人 私立大学情報教育協会会長

産学連携人材ニーズ交流会の目的、取り組み経過、今後の進め方等について報告・説明します。

13:10 情報提供

#### (1) ポストコロナにおける大学教育のDX化と数理・データサイエンス・AI教育

服部 正 氏 文部科学省高等教育局専門教育課企画官

新型コロナはヒト・モノ・カネの流れを急速に変化させ、社会の産業構造や生活様式、教育の在り方に大きな変革をもたらしています。コロナ禍はこれまで踏み込むことができなかった大学教育のデジタルトランスフォーメーション(DX化)を加速しています。Society5.0を目指す日本としてはサイバー空間とフィジカル空間を融合した未来を切り拓く人材育成の教育が不可欠となっております。そこで、新しい大学教育の創造を目指し、授業価値の最大化を実現していく文部科学省の構想と、数理・データサイエンス・AI教育の政策動向について説明いただきます。

#### (2) 仮想キャンパスによる産学連携イノベーションラボの提案

野村 典文 氏 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社技監(兼)エグゼクティブ・プロフェッサー

イノベティブな人材育成には「思考訓練を行う場」と「体系だっプログラム」が必要で、体系化された理論を研究できる大学と実際にイノベーションを起こそうとしている企業が協力しないと実現できません。そこで、新たな教育の仕組みとして「教育データクラウド」上の「仮想キャンパス」による産学連携での教育イノベーションの構想を提案いただきます。

#### (3) 仮想空間と現実区間を活用した産学連携プロジェクト授業の試み

青木 義男 氏 日本大学理工学部学部長・教授

教育のデジタル変革に向けた取組の事例として、現実世界での膨大な観測データなどの情報をサイバー空間で分析・予測することで、「社会システム効率化」「新産業創出」などを旨とする産学連携の取組みを紹介いただきます。

15:10 休憩 (10分)

#### 15:20 (4) 大学と社会が連携したデータサイエンス・AI教育の取組み

大社接続による教育のオープンイノベーションの仕組みとして、教育プログラムの共同開発、教材としての実データの確保と使用上のルール、大学への実務者派遣の支援条件、大学から企業への課題解決の助言及び共同研究に対する支援、知的財産の取扱い、費用分担など産業界や地域社会との合意形成が大きな課題となっています。そこで、実際に産学連携を進めている2大学に取組みを紹介いただきます。

##### <滋賀大学の取組み>

椎名 洋 氏 滋賀大学データサイエンス学部教授

##### <早稲田大学の取組み>

後藤 正幸 氏 早稲田大学創造理工学部教授

#### 16:20 全体討議

##### 大社接続による教育のオープンイノベーションを考える

価値創造に関与できる実践的な人材育成を目指し、大学と産業界・地域社会を組み入れた「大社接続」による授業モデルについて「情報専門教育分科会」からの報告を踏まえて、新しい価値の創造を目指すPBL授業の普及・推進方策を中心に大学と産業界がどのように接続・連携すべきかについて意見交換し、新しい学びの仕組みについて理解の共有を図りたいと考えております。

#### 17:00 閉会挨拶

#### 17:00 閉会

### 3. 参加対象者

#### (1) 大学関係者

私立大学の教員、職員

#### (2) 企業関係者

本事業に賛同する企業の経営責任者、人材育成部門・事業部門の責任者及び担当者

### 4. 運営方法について

- (1) 交流会の内容は編集し、私情協サーバーからインターネットにて配信を予定しております。
- (2) 映像は、参加者、発言内容が特定されないよう会場全体の俯瞰映像とし、交流会での発言は固有の大学名、企業名でなく「我が大学」、「我が社」などの表現で発言いただく予定にしております。

### 5. 参加費

無料

### 6. 申込方法

別紙申込書にて2021年2月26日(金)迄にお申込下さい。

申込書は(<http://www.juce.jp/LINK/sangakurenkei2020/>)に12月中旬に掲載します。  
ダウンロードしてメールにて([info@juce.jp](mailto:info@juce.jp))迄お送り下さい。

### 8. 問い合わせ先

公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局  
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-14 九段北TLビル4F  
TEL:03-3261-2798 FAX03-3261-5473 E-mail:info@juce.jp